

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
なかま編集係

〒285-0025  
佐倉市鎭木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

|       |               |      |                  |      |
|-------|---------------|------|------------------|------|
| 2 ページ | 毎日が美化運動 ..... | 斎藤 雄 | 金木屋 .....        | 清澤瞳子 |
| 3 ページ | 好きな言葉 .....   | 佐藤 寛 | 身辺雑記 五十銭銀貨 ..... | 富原敏光 |

## 美術館との出会い

今まで美術館に目的を持って訪れたことはなかった。

しかし勤めていた会社の定年退職者サークル、「歴史と文化を訪ねる会」のテーマが「美術館とその周辺散策」と決まり、その世話人として地元の「川村記念美術館から佐倉市立美術館を訪ねて」を企画した。

これは、地元の文化を仲間知って頂くには良い機会と思いい前向きに取り組んだ。

そこで、見学先との打ち合わせを充分に行い深まる秋の十月に開催。

青空の下、京成佐倉駅発の美術館送迎バスを利用、参加者二十三名で川村記念美術館に向かった。

幸いにも佐倉市・開国一五〇周年記念事業協力企画展が開催中で、館内に入ると学芸員の方から「作品」「建物」

## 六角 学

「自然」の三要素を調和させ、理想の美術館を目指したなどの説明と今回の「モーリス・ルイス秘密の色層」の企画意図を聞き、まずクロード・モネの「睡蓮」を鑑賞。

まじかで見ると睡蓮の花らしきものは下の左右にちらほら、しかしよく見ると上のほうにも小さく絵が描かれてい

るが花の絵とはいえない変わった絵である。学芸員の方から「それでは、絵より少し離れたこの辺りに集合して再度よく見てください」。数人から

「ウォー」との声が出る。今まで少し変わって見えていた絵が右上半分の暗がりの花や向こう岸の木立が水に映って上から下へゆるやかなリズムで広がり、明るい部分はゆるめく水面に空が映り込んでい

る。全員「目からウロコ」。つぎに、今回企画展の絵に

移動する。いずれも人の背丈をはるかに超える大きなカンヴァスに、薄めた絵具が幾層にも重ねられた美しい染物のような不思議な魅力を放ったルイスが描いた抽象絵画十六点を鑑賞。

庭園は木々が色づき始め十月桜、萩等を見ての自然散策。

それから、佐倉市立美術館に向かう。「佐倉・房総ゆかりの作家たち」の企画展と「郷土の先覚者パネル展」が開催されていた。

ここでは皆、積極的に絵の前で近くに寄ったり離れたりしながら活発な美術談義に花が咲く。

その中で、私も展示パネルで幕末を生きた郷土の先覚者の案内をする事ができた。

最後に、これからも佐倉の文化に数多く触れたいと思う一日であった。

(編集委員)



## 毎日が美化運動

不思議である。年に一度全国的に美化運動が展開されており、それ以外の時期でもそれぞれの地域の街中で、公園

で、或は駅前などで空缶空瓶拾いなどのゴミゼロ運動が行われているが、辺り構わず捨てられているタバコの吸い殻、使用済みのペットボトル、更

には公園のベンチの脇に捨てられた弁当の空箱（ひと息ついた昼食も台無しである）等々一向に減少しない。

開いた口がふさがらないのは市指定のゴミ集積場に、わざわざ車で運んで粗大ゴミを出す無神経な人間。有料だから他人に処理をやらせるの？それで自分の家の周囲を美化したと思ひ、満足しているのでしょうか。自分は樂をして他人に苦勞を強いる困った人間、私たちの身近にそんな人はいない筈、万が一少しでも思い当たる人は直ぐ改善し

てほしい。

佐倉市民憲章の一つに「私たちは美しく清潔なまちづくりをしましょう」と制定されている。これを市民全ての人が認識してほしい。

美化運動（ゴミゼロ運動）とは本来はゴミ拾いでなく、ゴミを捨てない運動でなくてはならない。

私は健康のために早寝早起きを繰り返して、一日置きぐらゐに早朝ウォーキングを続けている。その際道端に捨てられている“可哀そうな”空缶空瓶を拾い、持参している使用済みのレジ袋に入れて持ち帰っている。

このようなゴミ拾いと共に当たり前のことであるが、市民が一体となって指定以外の場所や日時にゴミを出さない運動を展開し、一人ひとりが清潔なまちづくりを進めるよう希望する。

（石川 斎藤 雄）  
たかし

## 金木犀 きんもくせい

金木犀 こぼるる庭に

主はなく

北京オリンピック、高校野球と燃えた夏の日は何処へ。「今年は金木犀の咲くのが、遅いわね」と、咲く日を待っていた、お向いの八十一才の彼女が、卒然と逝ってから二十日程すぎた今、やっと咲きはじめた。

独特の香は、樹木のあり方を知らせ、こぼれ落ちる小さき花達は、主のいない庭や、道端を埋める。

十三夜、十五夜には、その香を我が家まで、充分に伝えてくれる。

金木犀は、中国の原産で、江戸時代に渡来し、古くから庭園樹として広く栽植、観賞されている。常緑性の小高木は三、五米程の丈となり、よく分枝し、葉も多いので、手入れの仕方では、いろいろの

樹形を楽しむことができる。

花期は、九、十月、花に、強い芳香があるのが特長。

花の色の黄色が「金木犀」銀色のは「銀木犀」、その他「淡黄木犀」などがあると云われているが、よくみられてゐるのは「金木犀」。

小花は、バラバラとこぼれ落ち、路上を、庭を覆ってしまふ、ウスギモクセイ以外は、普通結実せず、接ぎ木で、ふやされている。

日本で栽培されているのはほとんど、花つきのいい雄木。低温の夜や高温の中で、よく匂う。木質は緻密で堅く、そろばんの珠や印鑑の材料として使用されている。

金木犀 待たずに逝きし

人思う

のうぜんかざら、きょうちくとう、さるすべり等、紅の花達が太陽と競っていた季も去り、日毎に深まり行く秋を樹木たちの姿にみる

（井野 清澤瞳子）

## 好きな言葉

私は黄昏<sup>たそがれ</sup>と言う言葉が好きです。夕暮れ時の事ですが、語源は、「誰<sup>た</sup>そ、彼<sup>かれ</sup>」です。

詰り、夕方薄暗くなって来て、少し離れた所にいる人もはつきりとは見えなくなり、「あの人は誰だろうか？」と思うようになった状態を指しています。

この言葉には、夕暮れ時の光の変化、薄暗くなっていく周りの景色、せわしく道を行き交う人々の姿まで、想像をさせるような含みがあるので私は好きなのです。

日本語にはこのように、含みのある美しい言葉が沢山あるのですが、近年はやたらとカタカナ書きの言葉が増えて私のような頭の古い人間は、大いに戸惑いを感じます。

特にこの傾向は商品の広告などに多くて「大人気のアイテムでショート丈、ゴージャ

スな仕上がりで、ディテールにもこだわった逸品です」などと、日本語外国語ごちゃ混ぜの文章を読んでいると、何とも居心地の悪い気分になってしまします。

言葉は社会の推移に従って変わっていくものですし、国際化の進む現状では、外国語が多く使われるようになって当然なのでしょうが、単に目新しさを狙ったり、内容を誇張する為にだけ使われるのではあまり感心はできません。

フランスでは文書などでも母国語をできるだけ多く使う事を、国の方針としてはっきりと打ち出していますが、これも一つの見識でしょう。

そこまでいかににしても日本語の持つ美しさや、正しい使い方を、学校教育の中でも、もっと積極的に指導して欲しいと私は思うのですが、皆さんはどうお考えですか。

(表町 佐藤 寛)

## 身辺雑記 五十銭銀貨

私の幼時期を育ててくれた母の生家、佐倉市弥勒の呉服商、伊勢藤は店舗の片隅で葉書、切手等を販売しておりまして、店先に赤いポストが立っていた。その頃の伊勢藤の家族構成は、祖父母、叔父夫婦、台所と広い庭仕事を受け持つ「おとら」さんと私。

確かな事は不明ですが、当時、叔父夫婦に子供が生まれなかったので叔父の姉に当たる私の母が五人の子供に恵まれたので、三男の私が一才の頃から引き取られ育てられていた風であります。私が六才になった秋の夕暮れ、急に泣き出して祖母に縋り付き、千葉の家に行きたいと訴えたそうである。祖父が驚き、「もう暗いから明日の朝にしなさい」と諭し、其の場を納めたと言う。

翌年の春、私は千葉市の男

子師範付属小学校に入学、兄と通学している。随分と話が飛ぶが、その頃の記憶が、すっかり消滅して確かめる術が無いのは返す返すも惜しい気がしてならない。私が小学一年の初夏、学校から帰って庭

木戸に立つと、佐倉の祖母が黒い夏羽織姿で、私を迎えてくれた。嗚呼、お婆さん、会えて嬉しいと駆け寄ると、私の肩を両手で抱き締め、「どんな事をしてでも、お前を放すではなかった」と、染み透る声で言い、象牙のように光る涙を流した。母が気配に気付いて駆け寄り、二人を座敷に誘う。祖母は小さく微笑み、今となっては、こんな事しかして上げられないと嘆き、悲しげな顔で、私の掌に五十銭銀貨を一枚握らせて佐倉に帰った。翌年の九月八日、祖母は癌で逝く。

私は昭和の末、鐫木の大聖院の祖母の墓の近くに、自分の墓を立てた。

(中志津 富原敏光)

# 12月の黒板

## ★★★ 『なかま』原稿募集のお知らせ ★★★

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

**【原稿規定】** 字 数 650字（13字×50行）以内。ワープロによる原稿（縦書き）でも結構です。

内 容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

◎ 『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

◎ いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

**問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）**

**電話 485-1801**

**URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>**

### さくら道

最近続けて、テレビとラジオでこんな話題を耳にした。給食費を払っているのだから、学校給食で子供に御馳走様と言わせる必要がないという親が現れたという内容である。これを聞いて非常に腹立たしくなった。親の方ではなくこの話題の出所である。これはきつと最初はブラックジョークの様な創作ではないだろうか。これが面白いので無責任に話題にしていると考えるのだ。確かにモンスターペアルンツ等という言葉がある現在だが、ここまでできたかとは信じたくないのだ。結構、このモンスターとやらに悩まされる事もあるという、近親者の教師にこの話しをしてみた。そこまではひどい人はいないけど、給食費を払わない家庭がクラスの一割以上いる事の方が、大いなる悩みだという。義務教育中、教科書代と同じく、給食費も無料にしてほしいものだ。

（坪井栄子）

### あがとき

今年もたくさんのご投稿、ありがとうございました。

「毎日が美化運動」は、減らないゴミに業を煮やしてのご進言と思います。人知れぬご努力に感謝いたします。

毎年、勤め帰りの夜道で「金木犀」の香りに気づくたび、ハツとして、移り変わる季節を感じた思いが甦ります。

「黄昏」は美しい言葉です

ね。この言葉には、誰しもが寂しさや、切ない思いをいただくのでは？

「五十銭銀貨」は、富原様が、大切にされている記憶なのでしよう。古い時代の佐倉の映像を見るような思いがして、感動しました。

今年は、年金、医療、食品問題等、いろいろありました。が、国も企業も、市民の信頼を損ねては、存続できません。来年は、安全、安心な年であることを願っています。

（猪瀬信彦）